

おおい 自然園

イヌシデ

No.148

雑木林を構成している主な木は、コナラやクヌギですが、それ以外にもよく見られるものがあります。代表的なのはイヌシデで、県西部では「そろ」と呼ばれます。

幹の縦縞模様が特徴ですが、よく見ると縦縞はねじれており、材も同様に薪にすると、まっすぐ割れず難儀すると言われます。

葉にはきれいに揃った葉脈があります。また、種子が集まって果穂^{かすい}を形づくっています。その様かしめ縄に下がる「四手・垂（しで）」に見えることから、この名があります。種子には翼があり、秋には風に飛ばされて分布を拡げています。

町内では本種の他に、アカシデ、クマシデが見られ、どれも家具材・細工物または薪炭材として利用されてきました。



▲イヌシデ (赤田)



▲クマシデ
(おおいゆめの里)

おおい自然園園長 一寸木肇

【おおい自然園 HP】



▲大井町の動植物や虫、石、自然観察会の結果などを掲載しています。

【自然NOWへの投稿】



▲町内の身近な自然情報をお待ちしています。
※撮影は横位置で